



2006.10.15
第24号

発行 四国ゴルフ連盟
〒790-0921 愛媛県松山市福音寺町55-1
電話 089-990-3260
FAX 089-990-3261

第26回四国クラブ対抗決勝

鳴門、大差で6度目V



2位以下に大差をつけ6度目の優勝を果たした鳴門チーム

第26回四国クラブ対抗決勝(8月4日、グランディ鳴門GC、6654ヤード、パー72、17チーム136人参加)
鳴門CCチームが2年ぶり6度

目の栄冠を手中にした。今年の夏は10日遅れの梅雨明け後、連日の猛暑続き。大会当日も35度を超す炎天下で文字通りの熱戦となった。優勝した鳴門は3選手がアンダーパー

でホールアウトしたのははじめ全選手が好スコアをマークし昨年の予選敗退の屈辱を二気に晴らす形となった。2位には宇和島CCが平成2年

打差が続いた。また、グランディ鳴門チームに大会初の女性選手が出場健闘して注目を集めた。個人では12選手がアンダーパーをマークした中で井上幸伸選手(土佐ユートピア)が優勝した。成績次のとおり。
①鳴門510 ②宇和島524 ③志度525 ④松山国際528 ⑤今治531 ⑥松山サイド531 ⑦高南532 ⑧土佐533 ⑨こんぴらレイク533 ⑩土佐ユートピア536 ⑪高松クラブ537 ⑫松山ロイヤル540 ⑬四国540 ⑭

ゴルフの面白さ実感 初の四国小中学生大会に98人



元気いっぱいのプレーをみせるちびっ子たち

ちびっ子ゴルファーの育成と底辺拡大をめざす「第1回四国小中学生ゴルフ大会」(四国ゴルフ連盟ジュニア委員会主催)が8月22日、新居浜CCで開かれた。昨年度ジュニア選手権競技と併

催された「小学生の部」を切り離し新設されたもので、大会には四県の児童生徒98人が参加、学年、男女別に5部門に分かれ、元気いっぱいのプレーを展開した。中にはコースに出るのが初体験の

子供たちもいて、付き添いの家族らに見守られながらゴルフの面白さ、楽しさを体感していた。各部門の優勝者は次のとおり。
▽小学4~6年の部男子 福浜将哉(丸亀飯野小)女子 三宅百佳(丸亀富熊小)▽同1~3年の部男子 杉野大河(徳島論田小)女子 安藤京佳(新居浜高津小)▽中学生の部男子 皆本祐介(三好中)女

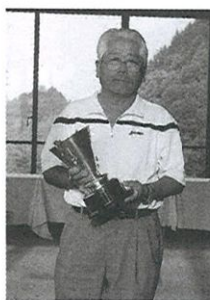


シニア制覇の矢野選手

矢野(新居浜)初の王座に 四国シニアプレーオフで決着

バーディで首位に立ったものの最後に矢野俊幸選手(新居浜)に並ばれた。プレーオフ決戦の結果、矢野選手が初王座を手中にした。成績は次のとおり。
①矢野俊幸(新居浜)141 ②高木佳紀(琴平)同 ③山中陽生(土佐)145 ④以上日本シニアへ ⑤真井純(御所)同 ⑥後藤高成(屋島)146

第26回四国シニア選手権(9月27・28日、詫間CC、6593ヤード、パー72、201人参加)
今年の全国大会が四国開催とあちて、出場権をめざす実力者が顔をそろえ、ハイレベルの熱戦が展開された。初日、アンダーパーが4人、パープレー4人の混戦となった。最終日は上位陣が伸び悩み中、9位タイの高木佳紀選手(琴平)が猛追、13番



グランド優勝の藤岡選手



ミッドシニアVの武智選手

グランドは初日、ホームコースの真木清臣選手(新居浜)、岡野昭選手(同)が1、2位で好発進したが最終日、首位に6打差で迫っていた藤岡一

同、60人参加) 快晴微風的好コンディションの下、両大会とも最後まで混戦が続いた。
ミッドは初日、1打差で3位タイにつけていた武智勲選手(松山国際)が最終日を手堅くまとめ猛追する3位グループを振り切り逆転の初優勝。
①武智勲(松山国際)157 ②浜西文夫(今治)158 ③栗本道晴(松山ロイヤル)159 ④以上日本ミッドシニアへ、角田守(高松ゴールド)同、岡林静寛(土佐山田)同
グランドの部 ①藤岡助(黒潮)153 ②宮成茂(レオマ高原)154 真木清臣(新居浜)同 ④安永利久(松山サイド)155 ⑤横井信正(滝の宮)158

片岡9アンダーV 四国ジュニア高校男子

第26回四国ジュニア選手権(7月27・28日、北条CC、男子6799ヤード、パー72、87人参加、女子6105ヤード、同、27人参加)
例年以上のハイレベルの大会となった。男子高校の部では6月の四国アマを制したばかりの片岡大育

子 堀奈津佳(城西中) ①小橋絵利子(香川西)145 ②丑田恵美(明徳)150 ③川原仁美(同)151 ④以上日本ジュニアへ
▽男子12~14歳の部 ①原敏之(香南)141 ②松山英樹(明徳)148 ③皆本祐介(三好)149 ④以上日本ジュニアへ
▽女子12~14歳の部 ①浜本風紗(明徳)156 ②岡村咲(大麻)同 ③堀奈津佳(城西)157 ④以上日本ジュニアへ

子 堀奈津佳(城西中) ①小橋絵利子(香川西)145 ②丑田恵美(明徳)150 ③川原仁美(同)151 ④以上日本ジュニアへ
▽男子12~14歳の部 ①原敏之(香南)141 ②松山英樹(明徳)148 ③皆本祐介(三好)149 ④以上日本ジュニアへ
▽女子12~14歳の部 ①浜本風紗(明徳)156 ②岡村咲(大麻)同 ③堀奈津佳(城西)157 ④以上日本ジュニアへ

▽男子15~17歳の部 ①片岡大育(香川西)135 ②前田和宏(明徳義塾) 峯森完太(寒川)

日本ジュニア12~14歳の部に出場した原敏之選手が通算1オパーで初優勝した。

助選手(黒潮)が大逆転し優勝した。成績は次のとおり。
ミッドの部 ①武智勲(松山国際)157 ②浜西文夫(今治)158 ③栗本道晴(松山ロイヤル)159 ④以上日本ミッドシニアへ、角田守(高松ゴールド)同、岡林静寛(土佐山田)同
グランドの部 ①藤岡助(黒潮)153 ②宮成茂(レオマ高原)154 真木清臣(新居浜)同 ④安永利久(松山サイド)155 ⑤横井信正(滝の宮)158

三木が2連覇果たす 第5回四国レディス大会

第5回四国レディスゴルフ大会(10月19日、滝の宮CC、5576ヤード、パー72、90人参加)
快晴に恵まれ熱戦を展開、三木逸子選手(土佐)が2連覇を果たした。ハンディ競技での連覇は快挙。成績次のとおり。
①三木逸子(ネット)65、ハンディ3、グロス68 ②上田彩子(こんぴら)76、9、67 ③藤間由紀子(高知)90、22、68 ④横田伸世(グリーンフィル)76、7、69 ⑤中八恵子(愛媛)80、11、69
部門別ベストグロス(マイエロ)賞 三木逸子68▽オレンジ賞 横田伸世76▽レッド賞 岩河百合子(高知)79



2連覇した三木選手

鈴木常務理事が生涯スポート功労で大臣表彰
文部科学省の平成18年度生涯スポーツ功労者に四国ゴルフ連盟の鈴木常務理事「写真」が選ばれた。大臣表彰された。ゴルフを通じての永年の振興活動が認められたもの。

おらが倶楽部でござる

其の二十五 四万十カントリークラブ



日本最後の清流と言われる四万十川と太平洋が眼下に望める景観の中で、ダイナミックなプレーを楽しめるのが我が「四万十カントリークラブ」です。

「土佐の小京都」と呼ばれるゆえんです。この古都の中心街から車で約10

風景です。打ち上げシヨットを重ねてグリーンに上がると、手前に四万十川河口、その奥の堤防の向こうに青い太平洋が二気広がり、グリーン近くの茶店で服しながら川と海の重なり合う雄大な景色が満喫できます。



四万十カントリークラブ
〒787-0160 高知県四万十市間崎1495-2
TEL 0880-36-2046
FAX 0880-36-2707

小京都の歴史に誇り

当クラブのある「四万十市」は昨年春、旧中村市が旧西土佐村との合併で誕生した新しい市ですがその歴史は古く、約540年前に土佐の国司だった前関白一条教房公が応仁の乱の戦火を逃れてこの地に下向、館を開いたのが始まり。京都を模した町づくりの跡が今も残り

OB減らし 海・川・山の 伸び伸びと 自然に抱かれ

分四万十川の河口添いの小高い山を造成してできた丘陵コースが当クラブ。昭和49年に9ホールで仮オープン、翌50年秋に18ホールが完成して正式開場しました。

と、初めて来場されたお客様からよく言われます。

「抗を最小限にしたので伸び伸びプレーが楽しめるようになった」とは岡添良洋競技委員長の話です。

こうして開場以来31年目を迎えました。バブル経済の崩壊後の深刻な不況で平成14年に親会社経営破綻、当クラブも会社更生法の適用を申請その後、外資系会社がスポンサーとなり、業界大手の「アコーディア・ゴルフ」の一員となったの

口ゆえに塩分が多く散水に適しません。幾度も芝を枯らしました。台風の通り道なので毎年のように被害を受けます。コース管理に知恵を絞っています。

随所に美しい自然

これまでクラブハウスなどの充実、コースの改造、整備を進め、男性的なコースイメージを維持し上級者からビギナーまで楽しめるゴルフ場づくりに励んできました。今後も爽快かつ充実したプレーをお楽しみ頂けるよう努める所存です。



寒ブリ石焼きカレー (宇和島CC)

「香ばしい香りが食欲をかきたてる絶品。韓国料理のピリッ感をヒントにレストランの那須那好店長が考案したオリジナルメニューである。」
小海老、イカに玉ネギなど野菜を加えカレー粉で味付けした海の幸の炊き込みご飯を石焼き鍋で加熱、からりと揚げた寒ブリの切り身を好みに応じてトッピングして食べる。食材はすべて地元産の魚介類。「ポイントはこちら。焼けたおかげで、老若男女を問わず人気メニューです」とは店長の話。

付け合わせは大根やナス、キュウリの浅漬けの盛り合わせ。一人前千三百六十五円。



鹿庭膳 (高松グランドCC)

伸び伸びプレーが楽して人気の高い当クラブの「鹿庭コース」にあやがつ名付けた和食膳。写真手前から煮物、刺身、焼き物と並び中央の皿に天ぷら。使った食材はざっと15種類で、ボリュームたっぷり的人气メニュー。

和食なのであっさり味が基調だが、素材を生かした入念な調理を心掛けており、特に煮物はしっかりと味付けに仕上がっている。「食材は地元でとれた旬のもの。一番」というレストランの上野幸作料理長。この道30余年の経験を生かして、季節ごとに安くて美味なメニューづくりに取り組んでいる。一人前千三百五十円。



お四国随想

手島皓一

空海は「森は美しい。おそろく現世より、また天界よりも美しいだろう」と言っている。空海が修業した断崖絶壁や洞窟などの難所には緑に染まった深い森があり、その森を見て「美しい」と感じ冒頭の言葉を残したのだろう。

れほど日本は緑に恵まれているのだ。八十八カ所でも特に極楽寺、焼山寺、鶴林寺、大竜寺、最御崎寺、金剛

それ以外の寺でも随所に綺麗な森を見られるところが沢山ある。日本人の先祖は誰に言われるでもなく植

森とお遍路

上



頂寺、神峰寺、岩屋寺、仙遊寺、横峰寺、雲辺寺などは深い森の中にある。

林を実行し子孫に伝えてきた。全く偉いものである。

編集を終えて

「プレーへの口出しはイエローカード。特に子どもを叱ったりしたらレッドカードで直ちに退場」この夏、開催した第一回四国小学生ゴルフ大会で付き添いの親さんらにこんなお願いをしました。▲予想外に多くの児童生徒が参加した今大会、中にはラウンド経験のないちびっ子もいたが、同伴の競技委員の指導で全員

が伸び伸びプレーを楽しんでくれました。親さんに口出しを遠慮願ったのは、ゴルフの面白さを子供たちに心から味わって欲しいと考えたからです。▲まずは遊び感覚でゴルフを楽しむ。その積み重ねがゴルフへの興味を深め、自己責任や周囲への思いやりの大切さを自然に身につける。それがジュニア育成の目的だと思っております。(T)



14番ホールのグリーンに立つと四万十川河口と太平洋の重なりが眼下に広がる